



明けまして

おめでとう

ございます

令和庚子 元旦

明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては令和初の新年を清々しくお
迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年十月連続して襲来した大型豪雨台風で被災
された方々には心よりのお見舞いを申し上げます。

介護保険制度は来年度に第8期改定時期をむか
え見直しが進められています。

制度持続を最優先とした「保険あつて介護なし」の広
がり、要介護1、要介護2、生活援助などの市町村
総合事業移管、利用料2、3割負担者拡大、保険

料増など利用者負担の増加、介護現場の人手不足

など「介護の社会化」から遠ざかる懸念が見えており
ます。

私達は高齢者の生活を守り支えるために声を挙げ
続けなければなりません。

さて、当会のこれまでの十年間を振り返ってみますと

① 「介護サービス情報の公表」では利用者にとって
よりよい制度にする為の公正公平平均一な調査を
継続して行なってきました。

② 「地域密着型サービス外部評価」ではグループホ

更なる活動の充実に向けて

代表理事 熊谷 道夫

① ム利用者へのサービスの質の維持 向上に着実な
成果を上げています。

③ 「福祉サービスマス第三者評価」では高齢者、障がい
者、社会的養護分野での評価活動を行ってきました。

これまでの実績は高齢者分野の比率が高く、「こども
も分野」は少数でした。昨年は地道で粘り強い受審勸
奨により、保育分野の受審依頼を受けることができました。

さらに県内第一号となりますケアハウスの評価にも
取り組み、活動の幅を広げることができました事は大
きな成果でした。

また、地域支え合い推進委員会を中心とした地域毎
交流会の開催、よろず相談等々、地域支援事業にも
取り組み、基盤を構築しつつあります。

本年も当会の重点項目を一步一步あきらめず粘
り強く進め、利用者にとりより良い介護の社会化の
進化、NPO法人としての安定的な事業の展開、人材
育成への仕組み作りなど、これからも更なる活動の充
実に向けてONE TEAMフロンティアで取組んでいきま
しょう。

会員、関係者の皆様の今年一年のご多幸を祈念いた
します。

新調査員を迎えて

活動体験のなかから ①会員になったきっかけ、②介護・福祉について思うこと、③訪問調査をして感じたこと、④趣味・特技 についてコメントを寄せていただきました。

活動の更なる充実に向けて



まだまだ研鑽が……
鎌田 緑

- ① 知人からの紹介
- ② 超高齢化社会の中、地域の力、福祉事業所のあり方が大切になってくると感じます。
介護現場での仕事に長く関わってきましたが、形を変えても福祉に関わりながらお役に立てる事が出来ればと考えています。
- ③ 地域密着型外部評価活動をさせて頂いております。
今後、介護人口が増加していく中、地域密着型は自分の暮らす地域に根ざす事業所として重要な役割を持っている為、利用する方にとって質の良いサービスを受けることはもちろん、働く方にとってもよりよい環境である為にも、事業所の方と一緒に考え、よりよい方向に導く問いかけはとても難しく先輩の方々の優しくも適切な問いかけに感銘を受けました。これから私自身まだまだ研鑽が必要と感じています。
- ④ ドライブ、温泉、食べ歩き



新人研修も束の間……
猪股 直行

- ① 公務員を定年退職後再就職先も卒業し、今までの仕事と関わりの無いことを考え、旅行とか時間に縛られない自由気ままな生活を思い浮かべていました。
しかし、「人生100年時代」が言われ始めた時に、母が施設(グループホーム)に入所をして感じたことは、入居者も介護する人も大変な状況にあるということでした。
そして自分の老後を考え気持ちが重く暗くなりました。
そんな時に、昔からお付き合いのあった町内会の柏倉二男さんに母の相談をしていて「一万人市委員会」を紹介されたのが入会のきっかけとなっています。
- ② それから、福祉の知識も何も無いままに「介護サービス情



みんなちがってみんないい……
佐藤 静江

- ① 活動大先輩からのお誘いを頂いた事でした。
誰もが迎える高齢化、介護の世界は未知の分野で興味深くスタートしたところでした。
海を身近な暮らしから一転したのがあの東日本大震災、大津波でした。
幼児施設一途の現役から定年退職間際の出来事でした。
長男の住む仙台に転居、生かされた事と大勢の方々に受けたご恩に感謝の気持ちで一杯です。
社会参加の術を探した時に市民センター共催のボランティア活動がありました。
行くところが有って、意欲の有る人たちに出会えて居心地良く過ごせるようになってきました。
- ② 介護の社会化その人らしい暮らしを目指して、今係われるところからと心しています。
- ③ 各事業所は厳しい状況下、精一杯の頑張りが見えるのも、マンパワーの重要性、人となりの大切さを痛感です。
ぜひ、良い意味での「みんなちがって、みんないい」で有りますように念じています。

- 報公表制度調査員養成研修」と「地域密着型サービス外部評価調査員養成研修」と過密スケジュールで受講し、その他にも「調査員全体研修」「地域密着型サービス外部評価員フォローアップ研修」と学ぶことが多く大変だと思いました。
- ③ 新人研修も束の間、施設を訪問し調査員としてスタート切りました。先輩調査員のご指導を受け日々勉強中です。
また、施設毎の人間関係や同行調査員も違い、新鮮な気持ちで今のところ夢中で取り組んでいます。
これから益々、介護福祉の現場が重要な役割を負うことになるでしょう。微力ながら少しでもお役に立てればとの思いです。



調査員として、人として……

鈴木 久恵

- ①勤務をしております会社で、たくさんのご指導頂き見守って下さった方からお誘い頂き、お世話になることとなりました。
- ②福祉の仕事を通して、たくさん利用者様と関わってきましたが、2年前に家族の立場として介護を経験しました。制度の仕組み等知っているはずが、家族の事となると不安と焦りでいっぱい毎日でした。多忙で不安いっぱいの介護期間、誰もが必要な情報を平等に簡単に知り、自己決定した事に背中を押してくれる人がいる事の大切さを実感しています。
- ③同行させて頂きました先輩調査員の方々の細やかな気配りと優しさ、調査時の質問の的確さと豊富な知識や高いコミュニケーション力に感心致しました。自分がどのぐらい努力を積み重ねれば近づくことができるか不安ではありますが、皆様方からたくさんのご意見を吸収し、調査員として、人として成長したいと思います。
- ④御朱印集め



調査の進行……

相馬 由美子

- ①5月でデイサービスを退職することになった時、友人に勧められた。
- ②介護は社会全体で考えるように変わってきていると感じる。高齢者も介護保険を使うことに徐々に抵抗がなくなっているようだ。福祉は公共性を含んでいると思う。
- ③調査は最初のオリエンテーションをきちんとすることで、あとの調査進行がスムーズに進むと感じた。「グループホーム」は施設ではなく生活の場というが、一般の方や近隣の住民にはまだまだ理解してもらっていないのが実情だと感じた。運営推進会議に町内会や地域の方のように参加していただくかがカギになっている。
- ④年配の方々とテニスを楽しんだり、地域の仲間とすずめ踊りを楽しんでいます。



介護、福祉の正解は……

川向 美千子

- ①友人の紹介、今までの介護経験が多少活かせるような事、また他施設にも関心がありました。
- ②老老介護、認知症、介護施設での悲惨な事件・事故等行政の限界とも思われる中での「介護、福祉」とは自分なりに考えても正解は無いのかも？今は自分の出来る範囲で最善を尽くすことと思います。
- ③各施設共高い理念を掲げて、その実践に入居者の目線で努力されているようで頼もしく思いました。
- ④小旅行（ローカル線巡り、スイーツ、美術館）、読書



よくここまで……

鎌田 宰至

- ①私は3年前にサラリーマン生活を終え、実家のある栗原市瀬峰の地で、趣味でもあった花や野菜作り等、土と戯れる生活に浸っています。最近になり、妻の友人であり公表制度調査員でもある方から「やってみない？」との声掛けを頂き、調査員に挑戦した次第です。
- ②今年94歳になる母は、60代後半から認知症が進み、現在隣接する街の特養にお世話になっています。今から20数年前認知症の進行に伴い、父と私達夫婦の日常生活が狂い始め母親を心底恨んだことを思い出します。現在の母は、面会にいく度「あら～お姉ちゃん！ありがとうね！」と満面の笑みを浮かべて答えてくれます。今の日本社会において欠く事の出来ない重要な制度だと考えます。
- ③今年9月外部評価調査員の資格を頂き、今までに実習を含め3つのGHの外部評価を経験しました。感想はただ一つ「どこのGHの職員さんも、よくここまで、入居者の思いをしっかり受け止めながらお世話を励んでいるな！」と唯々感心するばかりです。
- ④30年前から続けている趣味は園芸としてのバラ、洋ラン栽培そして、孫たちに美味しいと言ってたべてもらえるよう始めたブドウ、桃、洋ナシの栽培、退職後に始めた日常野菜類の栽培です。ただ70歳を超えた今、体力的にもおぼつかなくなっているのを感じる今日この頃です。



先輩調査員のように……

小松 清徳

- ①職場OBにより一万人市民委員会を紹介され、お手伝いする事となりました。
- ②妻は交通事故受傷で通院送迎。私も別事故による後遺障害で今も通院等が多く、世間の老々介護問題・人生100年時代に併せ介護・福祉を私も”キチン”と理解していきたいと思ひます。
- ③人間関係が和やかな感じに思え、職員の気遣いは大変な事と思われた。職員は常にメモを取っており、利用者の状態をきめ細かく目配りをしており、手厚い看護に心掛けている点が察しられ、職員に対し労いを込めた気持ちで聞き取りを行う事が必至と思えた。同行の先輩調査員のように、対応出来るよう心掛けたい。
- ④楽器演奏に凝り、三味線、吹奏楽(サクソ:SELMER、B♭クラリネット:エース)を嗜む。
三味線:長期間押し入れに収納していた処、皮損傷現在未修理のまま(震災後整理時気付く)
・アマチュア無線(凡そ半世紀運用):若い頃はMobile運用で海外交信。最近では時折近距離通信。
・国家資格等29所持



優しい社会に……

張間 佳代

- ①仕事の整理をして自分の時間をとれるようになった時、すでに会員になって活躍している方の活動内容を聞いて、自分も携わってみたいと思ひ紹介して頂いた。
- ②親の介護を通じて、介護制度の知識不足により苦労した。また、人としての尊厳について考えさせられる機会を得る事が出来た。
誰もが生きやすい優しい社会に！ 誰もが利用しやすい介護・福祉制度の成熟に期待したい。
- ③それぞれの立場で、思いや価値観の違いを感じた。調査員として気づきを促せるような質問力と、施設の応援団として良いところをアピール出来る文書力を高める努力をしていきたいと思ひます。
- ④美味しいものを食べるのが好きです。友達とランチをしながらのおしゃべりや、家族との旅行を楽しんでいます



自立した生活……

高橋 邦子

- ①家にばかりいたのでは社会に置いていかれそうと思ひていました。
そんな時、新聞に生活支援コーディネーターの受講生募集を知り応募しました。そこで知り合った友達からの誘いで、介護・福祉の事に興味をもち受講するきっかけになりました。
- ②誰でも健康に毎日を過ごして行きたいと思ひますが、知らず知らずとあちこちに痛みが出たり、もの忘れをしたり、筋肉がおちて歩行が困難になったりと老化を感じます。いつまでも介護を必要としない、自立した生活が送ればと思ひています。
- ③施設では個々の利用者さんに合った食事や、機能訓練等どのようにすれば毎日をたのしく、充実した日々を過ごしてもらえるかと職員さんの努力と細やかな心づかいが感じられました。
- ④旅行(かけ流しの温泉が好きです)、映画鑑賞



質・量などの向上……

出口 香

- ①昨年受講した福祉の講座に「一万人市民委員会宮城県民の会」から根本さんを始めとする数人が参加していました。「一万人……」という聞き慣れない会の名前に興味湧き、話しかけたのが運の尽き？です。
- ②2000年に介護保険制度が導入され、高齢化社会を支える社会制度として大きな期待を集めましたが、介護報酬の引き下げや利用者負担増などで期待を裏切っているように感じます。
老人福祉を殆んどすべて介護保険制度に転換し公費の措置制度による福祉を廃止しましたが、介護保険と公費の介護サービス「2本立て」のシステムは一考の予知があるのではないのでしょうか。
- ③施設、事務所によって介護サービスの質・量などが様々だと感じました。
少しでも質・量などの向上の一翼を担えたらと思ひます。
- ④趣味 = ウルトラマラソン(長い距離をマイペースで楽しく走る)、登山、読書
特技 = どこでもすぐに寝られる

生活支援・介護予防サービスの更なる充実に向けて

すべての高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるため、高齢者自身が生活支援の担い手として社会的役割を持つことにより、生きがいや介護予防にもつながるよう高齢者の社会参加を促し、生活支援・介護予防サービ

スの更なる充実に向けて、地域の中に生きがい・役割をもって生活できるような居場所と出番づくり、支え合い助け合い等各種各様の支援活動や地域づくりに取り組んでいる団体を紹介します。

ご存知ですか？
あなたの地域の福祉活動

若林区
なないろの里



「多世代交流複合施設」

アンダンチ

2018年7月1日に若林区なないろの里に、施設住民と地域住民が気軽に交流できる新たな地域コミュニティ形成に向けて、地域に開放された医・食・住と学びの多世代交流複合施設「アンダンチ」がオープンしました。「アンダンチ」とは仙台の方言でご承知のように「あなたの家」の意であり、この言葉の元にあなたの

「地(場所)」、「知(知恵)」という意味が込められています。1000坪の敷地には季節の花や実をつける木や花、ハーブが咲く小路、ビオトープ、ベンチ、ヤギ小屋、ピザ釜、井戸のある中庭があり、それを囲むように各施設が配置されている。中庭に入ると、暖かみのある、ほっとする空間に出会える。

各施設は

- * 株式会社「未来企画」が運営する
- アンダンチレジデンス…医療、住居、食事の環境を充実させたサービス付高齢者向け住宅。
継ぎ目の無い・医療・介護・生活支援を24時間体制で「その人らしい豊かな暮らし」の支援
- 駄菓子屋・福のや…なないろの里地域の子どもたちの交流の場。
アンダンチレジデンスの玄関に併設してある。(入居者さんや就労支援のメンバーさんがお店番も)
- アンダンチ保育園…企業主導型保育園。
スタッフや提携企業、地域の子供を預かり、子供の成長と子育てを支援する。
また、中庭は子どもたちちの園庭(お年寄りや就労支援のメンバーさんとの交流も)
- アスノバ…障がい者就労継続支援B型事務所
地域・多世代交流の場所として機能する場。
医療介護等によろず相談窓口の「暮らしの保健室」も兼ねている。
地域交流イベントやワークショップが出来るレンタルスペース、みんなのオススメの本が集まる小さな図書館、ハンドメイド商品の物販スペースがある。



- * 医療法人「モクシン」が運営する
- HOCカンタキ…看護小規模多機能型居宅介護事業所。
看護師、介護士、理学療法士が24時間切れ目なく柔軟に支援。
訪問看護事業所としても運営
- * 株式会社「結わえる」が運営する
- いろは…和食レストラン(寝かせ玄米と日本のいいものいろいろ提供)
特殊な圧力釜で炊いて3~4日間熟成させた「寝かせ玄

米」、国産、旬、地元の食材を生かした手作り料理(各施設にも提供)

従来の介護福祉施設での暮らしは閉ざされたイメージが強く、外部との関わりが限られてしまうことが一般的であったが「アンダンチ」では障がい者や健常者子どもや高齢者など様々な人が一緒につながりながら地域で暮らす「場」を創り出し、各施設と震災で被災した方々の集団移転の地であるなないろの里の新しい地域住民の方とも交流できる「街」になっている。



※「アンダンチ」は
GOOD DESIGN AWARD2019
で地域・コミュニティづくりのジャンルでグッド
デザイン賞を受賞した。

職員が安心して仕事が続けられる支援の必要性や核家族が進むなか、高齢者との触れ合いが少なくなり、知恵(文化)の伝承(高齢者の役割)についての思い、また小学校の時、障害を持った友人が普通にクラスの中で皆に溶け込んでいた事などが、「アンダンチ」のプランニングに繋がっている。

就労支援は施設の清掃業務、物販業務、生産活動(印刷業務、モノづくりなど)しながらアスノバで繋がります。

また、子どもから大人まであらゆる人に「役割(仕事)」を創り出し、社会性や生きがいにつながるようなしくみを作り、お互いの「ありがとう」を交換するアンダン



アンダンチレジデンスの暖炉のある談話室で株式会社未来企画代表取締役福井大輔氏に「アンダンチ※」設立の経緯や仕組み(プランニング)そしてこれからについてお話を伺いました。

義父(堀田修クリニック院長)との話の中で、医院で透析を受ける患者が自分の今後について心配する様子を見ていて、看護・介護が必要な方に少しでも安心して暮らせる住まいを作れないか、と言われた事が起業のきっかけだった。2015年に小規模多機能型居宅介護事業所を設立し、住み慣れた地域に安心して住み続けられるための支援をしてきた。その中で子育て中の



子内で循環する独自の地域通貨「ダンチ」も提案も一つです。

街では定期的な交流イベント(コンサート・味噌づくり・食育・子ども食堂・お餅つき)なども企画・開催しにぎやかです。

また、自閉症のお子さんを持つ職員の要望があり、地域をリサーチし、放課後デイサービス(障害児サービス)を荒井東に開設し療育環境の提案もしています。対人援助をする職員の環境整備があつてこそ暮らしのサポートが出来る。そして終の棲家として、レジデンスの入居者が希望すれば、皆で看取りまでしっかりサポートしています。今後はニーズに合わせた介護・看護付き住まいの提案も考えて行きたいと話されました。

取材で感じたことは地域に開かれ、世代間交流のある「アンダンチ」の安心のある暮らし。

私もあなたも「日々是好日」



理事会模様

◆2019年度第4回理事会

★令和元年11月19日(水)、仙台市生涯学習支援センターにおいて第4回理事会が開催されました。

主な活動報告、審議事項は次のとおり

- 1、2019年度各事業進捗状況報告並びに提案審議事項について
 - 1) 地域支え合い活動
 - 2) 情報の公表制度訪問調査活動
 - 3) 地域密着型サービス外部評価活動
 - 4) 福祉サービス第三者評価活動
 - 5) みやぎ介護人材を育む取組宣言認証制度第2段階確認調査活動
- 2、広報、財政、組織、総務関係について
- 3、諸会議、研修会などの実施・参加状況と今後の計画について
- 4、その他

(詳細については事務局備付けの議事録を閲覧願います)

『フォローアップ研修会』模様

◆第3回地域密着型サービス外部評価

★令和元年12月17日(火)、仙台市生涯学習支援センターにおいて第3回地域密着型サービス外部評価活動のフォローアップ研修会が開催されました。主な研修内容は次のとおり

- 1、外部評価実施の流れ
- 2、ガイドラインに沿った実践状況の記入例・見直し事例
 - ・調査報告書の記入語句事例集
 - ・ガイドライン・考え方の指針
 - ・調査員が共有したいガイドライン



「地域支え合い推進委員会」だより

◆令和元年9月30日(月)会員交流会の開催

★茂庭荘(仙台市太白区)において、会員31名が参加実施されました。

村田会員によるアイスブレイキング、歌唱指導や今回初めての企画として、会員の協力により持ち寄り寄付して頂いた品々のバザーを行いました。

当日は天気も良く絶好の交流会日和でした。

◆令和元年11月29日(月)第9回地域支え合い推進委員会を実施

★交流会の成果と反省について話し合いを行いました。

◆令和元年12月11日(水)第10回地域支え合い推進委員会を実施

★2020年度の具体的な活動内容について検討を行いました。



2019年度評価活動実施状況

★地域密着型サービス外部評価活動

7月に開始した「地域密着型サービス外部評価活動」は第2四半期20事業所、10月は26事業所、11月は21事業所、12月は17事業所(予定を含む)合計84事業所の評価活動を終えています。今年度の評価活動対象事業所は約113事業所ですので12月末の進捗率は74%となっています。

★情報の公表調査活動

「情報の公表調査活動」は10月に開始し、10月は94事業所、11月は121事業所、12月は84事業所(予定を含む)合計299事業所の調査活動を終えています。今年度の調査対象事業所は約444事業所と昨年度と同程度の事業所となっており、12月末の進捗率は67%となっています。

★福祉サービス第三者評価活動

「福祉サービス第三者評価活動」については、5事業所と受審契約を締結し、11月に2事業所の訪問調査を終え、12月から2月までに3事業所の訪問調査予定になっています。

5事業所の中には県内第1号のケアハウスの訪問調査を実施しています。



「人生七十年（感動感激感謝感涙）」

日本縦断記念旅行

会員 伊藤正義

某テレビ局の日本縦断（このころの風景・人生下り坂）の旅番組を見て思い出し、自分にも出来るかと決意して、まずテーマを「人生七十年感動感激感謝感涙日本縦断記念旅行」とし、九州七県を重点に足は自転車とはいかず愛車とし各都道府県別の観光パンフレットと格安民宿、旅館などの一覧表を作成して九州横断観光計画ルートのロードマップとした。

精査のうえ九州地区のみで三十三日間、帰路は日本海側を北上し五日間程度のルート査定する、旅行は五月の連休明けとしこの計画を愛妻に見せた所、最初は乗り気であったが音をあげてしまう。

大蔵省が同行しなければ財源が厳しいので、愛車に、寝袋、テント、非常食品、炭等詰め込んだ。

旅の目的は感動感激感謝感涙であるが、この度の大震災で各方面より多大な物資や精神面での援軍を頂いた。

特に自分を始め子供達が通勤族のため、多くの方々に励ましを頂いた。事前予約せずにお礼の手紙と少々のお土産を持参し、計画、実行した。

基本的には高速道路利用せずにスローライフの体験はこれからの人生の役立つと考えた。

瀬戸内海の夜景が年甲斐もなくロマンチックを感じワインが美味かった。

福岡ではあの頃西の八幡製鉄を追いつけ追いつけと仕事にラグビーに切磋琢磨してたのが走馬燈の様によみがえった。

様々な出会いがありました。割愛させて頂き震災を教訓にこの経験を友人、友人、恩師に会い感謝の意を示す旅でもあった。

後ろを向いても仕方がない寝たきりにならず自分らしく生かされた命で前進するのみと思いい肩の力を抜いて小さな幸せに感謝感激に過ごしている。

【編集後記】

寄る年波には勝てず、日増しにモチベーション、集中力の減衰が進み思い悩んでいる。我が座右のパソコンも主に負けず劣らず（パソコンの方が重症？）、動作が鈍くなかなか立ち上がってくれない。立ち上がったのは良いがこちらの思いどおりに動いてくれない。挙句の果てに凍り付いたように止まってしまうこともある。その度にナンでこうなるのと思いつながらやり直し、またやり直しする始末である。こんな事の繰り返しで、つい、持ち主の言うことも聞けなくなったら終わりだよと試してみたら、ここで始まらない・・・。なんやかんやと悪戦苦闘の末、ようやく「ニュースレター132号」の自分の持ち分の編集・校正作業を終えることができホッとしている。

【閑話休題】
 本号から曾根 務さんが編集委員会メンバーに加わりました。古参(?)メンバー共々、今年もよろしくお願ひします。
 (かねひら)

◆よろず相談会のご案内

法律、成年後見関係の分野に限らず、会員やその家族、知人の方がお持ちの生活全般に関わる「困りごと」「悩みごと」などなんでも相談会です

2020年(令和2年)1月から4月までの開催日程は下記のとおりです。

☆開催日程

- ・1月21日(火) 相談役 安田廣治司法書士
- ・2月19日(水) 相談役 武田貴志弁護士
- ・3月17日(火) 相談役 安田廣治司法書士
- ・4月21日(火) 相談役 武田貴志弁護士



特定非営利活動法人
 介護の社会化を進める
 一万人市民委員会宮城県民の会

編集委員

荒井 勝子 阿部 洋子 柏倉 勝 兼平 幸雄
 工藤 俊廣 曾根 務 本田 裕子 前田 泰子